

現地を訪問して想うこと

平岡 亮太郎（2014・理工学部）

「百聞は一見に如かず」とはよく言ったものである。東北応援ツアーを通して初めて被災地を訪れて感じたのは、想像していたものとは違うということだった。震災以降、多数のメディアやネットを通して被災地の現状を分かったつもりでいたが、直接見たり聞いたりする中で、想像と現実の間に大きく二つのギャップがあることに気付かされた。

一つ目は、復興が進んでいないということ。震災から日が経つにつれて被災地がメディアに取り上げられる機会は減り、それに伴って復興も終わったものだと勘違いしていたが、現実には厳しく何も無い空き地がただただ広がっているだけであった。その一方で、厳しい環境にも関わらず地元を思い復興に果敢にチャレンジする方々を見て、ハード面での復興は確かに遅れているのかもしれないがソフト面での復興は着実に進んでいることも実感した。

二つ目は、ただ訪れるだけでも復興支援に繋がるということ。今までボランティア等をしたことがなく、復興支援というと何か大それたことをする必要があるのでないかと考えていたが、観光して食事をするだけでも復興に繋がっているという事実は衝撃的であった。被災地の一日でも早い復興を実現するべく、また被災された方々のお力に少しでもなれるように、まずはそういった簡単な支援から始めていきたいと想う。